

第3回 軽井沢町地域公共交通会議 会議録

○開催日時 令和7年3月19日（水）13：30～15：00

○開催場所 軽井沢町役場 2階 第3・4会議室

○出席者 土屋三千夫、畑詩織、美斉津真崇、鷹野裕司、遠山隆雄、佐藤幹夫、
土屋隆、中里順一、矢内英男、内堀詩子、松井道夫、竹島達也、
丸山賢一、松葉和彦、佐藤忠敬、小出慎一、轟直希、宮本隆、
菊池一成、岩井和成、（敬称省略）
事務局：児玉香織、市村祐樹、内堀駿太郎
（株）地域総合計画 都市計画事業部 宮澤一成課長 谷口成志技師

○傍聴者 3名（定員6名）

○次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 議 事
 - （1）地域公共交通計画策定について【資料1・2】
 - （2）その他
4. そ の 他
5. 閉 会

○議事内容

1. 開 会

【事務局】

お足元の悪い中ご参集いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、これより軽井沢町地域公共交通会議を始めさせていただきます。議事に入るまでの間、会議次第に沿いまして進行を務めさせていただきます、住民課長の児玉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて進行させていただきますが、ご了承ください。

はじめに、町では住民等の町政への参画とともに、公正で透明な町政を推進することを目的といたしまして、軽井沢町審議会等の委員の選任及び会議の公開に関する指針を策定いたしました。この指針に基づきまして本日も公開することとし、傍聴可能としております。

また、会議終了後の議事録につきましても、皆様の氏名を伏せた状態で公開をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

前回に引き続き、軽井沢町地域公共交通計画の策定委託業務を支援いただいている株式会社地域総合計画、都市計画事業部の宮澤課長と谷口技師も参加されておりますので、ご報告いたします。

次に傍聴者の皆様にお知らせいたします。資料につきましては会議終了後に回収させていただきます。また、会議中は携帯電話をマナーモードにするなど、円滑な会議進行にご協力賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、お手元に配布してございます資料等の確認をお願いいたします。資料につきましては、次第、「軽井沢町地域公共交通会議参加者名簿」、資料2として「計画策定の方針性に関するとりまとめ資料」、資料3として「軽井沢での自動運転実証実験の実施について」の4種類となります。

なお、資料1の「軽井沢町地域公共交通会議 第2回調査報告」については事前送付しているため配布しておりませんが、必要な方やその他資料が不足しているようであれば事務局までお声掛けください。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

2. あいさつ

【事務局】

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず「2. あいさつ」でございます。本会議の会長である土屋町長より挨拶をお願いいたします。

【会長】

皆さんこんにちは。

本日は、大変お忙しいところ、また、大雪の中ですね、ようやく警報も解除されたようですけれども、足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

日頃より地域公共交通の発展と利便性向上にご尽力いただいている皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、公共交通は地域住民の生活、別荘所有者や観光客の移動を支える重要な社会基盤であり、当町に関係する全ての方々にとって欠かせない存在です。

町では、地域の実情に即した交通ネットワークを構築し、公共交通を持続可能なものとしていくため、「軽井沢町地域公共交通計画」の策定に向けて調査研究を進めてまいりました。

本日の会議では、皆様に今年度の調査の成果と、調査結果を踏まえた方向性をお示ししますので、来年度での計画策定を見据えて、率直なご意見をいただければと考えております。

結びになりますが、皆様のご協力に深く感謝申し上げますとともに、本日の議論が実り多いものとなり、地域の発展につながることを心よりお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

3. 議事

【事務局】

これから議事に入りたいと思いますが、軽井沢町地域公共交通会議設置要綱第4条第2項の規定に基づきまして、会長が議長を務めることとなっておりますので、土屋会長、進行をよろしくお願いいたします。

【会長】

はい、わかりました。

では皆様のご協力をいただきながら議事を進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

早速ですが、本日の議事に入りたいと思います。

議事（1）軽井沢町地域公共交通計画策定について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

住民課交通政策係長の市村と申します。着座にて説明をさせていただきます。

議事（1）、地域公共交通計画の策定について説明いたします。資料1をお手元にご用意ください。

軽井沢町では令和6年度から令和7年度にかけて、地域公共交通のマスタープランとなる、「軽井沢町地域公共交通計画」の策定を進めており、今年度における調査状況を報告させていただきます。

前回の説明と重複する部分が多いため、各調査結果を踏まえて、今後の方向性を決めていく根拠として、課題の部分を中心に説明いたします。重要な案件となりますので、少々説明が長くなりますがよろしくお願いいたします。

はじめに、計画策定の流れについてご説明いたします。前回の会議でご意見がありまし

た計画策定の全体のフローを1ページから2ページにお示しさせていただきました。

1ページ目は計画策定に向けて今年度に調査した内容を整理しました。記載されている内容を本資料で調査結果として取りまとめておりますので、後ほど説明をさせていただきます。

2ページ目をご覧ください。現在地としまして、ページの上段にお示ししているとおり、各調査結果に基づき、課題を整理し、計画案を作成するための方向性を取りまとめたところでございます。

今後の流れといたしましては、今年度の調査結果を踏まえまして、計画の基本方針や目標について内容を整理し、計画の策定を進めてまいります。

想定している計画案の構成は左下に記載していますので、参考にご覧ください。

その隣には町民等への認識共有といたしまして、骨子案を策定した段階でワークショップを開催しまして、基本方針や目標について意見を伺う予定です。こちらは年度前半の実施を想定しています。

また、年度後半には計画案ができますので、パブリックコメントの実施、加えて、より計画案に対して理解を深めていただくための住民説明会も併せて開催できればと考えています。

なお、計画策定は3月を予定しており、地域公共交通会議については必要に応じて開催させていただく予定でございます。

続いて、3ページから17ページは本町の公共交通を取り巻く状況をまとめています。主だったものを説明させていただきます。

5ページをご覧ください。2の2、人口に関してご説明いたしますと、令和2年時点の国勢調査による人口は19,188人であり、令和7年以降の国立社会保障・人口問題研究所の推計値は減少傾向へ転じると予想されています。

一方で、前回の会長の発言にもあったとおり、町独自の推計では、令和6年11月末の住民登録約21,800人に加え、住民登録していない方、町内には別荘等ございますので、約7,000人の常住者がいると推測されていますので、下の注釈にその旨を記載させていただきました。

続いて9ページをご覧ください。老年比率について、地図上の色の濃い部分でその割合が高いことを示しておりまして、旧軽井沢や千ヶ滝西区、ニュータウン、馬取、茂沢といった郊外を中心とした地区における高齢化率が高い状況がうかがえます。

続いて10ページ、11ページをご覧ください。通勤通学先では、町内のほか、県内の近隣市町との通勤通学も多いことが分かります。

また、13 ページをご覧くださいと、買い物動向として、佐久市や御代田町への流出率が高い傾向もうかがえます。

続いて 16 ページをご覧ください。観光客数と観光消費額では、コロナ以前と同程度へ回復傾向であり、特に観光消費額は、令和元年度を上回っています。

17 ページをご覧ください。(1) 自動車保有台数について、町内在住者の自動車保有が増加傾向にあること、ページ下部 (2) 自動車運転免許自主返納件数について、65 歳以上の運転免許保有者数も増加していく見込みにあることが分かります。

次に、18 ページをご覧ください。記載の各種計画について、24 ページにかけて上位関連計画などを整理させていただきました。

なかでも、21 ページに記載のある、町の最上位計画に位置している第 6 次長期振興計画では、しなの鉄道や町内循環バスの利用促進、パーク & レールライドシステムの推進、デマンド交通の検討に取り組むことを掲げています。

続いて、25 ページをご覧ください。こちらから 37 ページにかけては、町内の公共交通の現状について整理しています。

29 ページをご覧ください。こちらでは町内の鉄道やバスによる人口カバー率を整理しており、この結果、塩沢地区や南ヶ丘、成沢、千ヶ滝西区、追分地区などの一部に加え、茂沢地区の全域といった公共交通空白地が確認され、町民の 3 人に 1 人が利用圏外になっている状況です。

続いて 31 ページでは町内循環バスの年間利用者数や月別利用者数について整理しており、①年間利用者数は令和 5 年度に過去最大を記録しています。また、②月別利用者数では各路線とも 8 月に利用者数が最大となっており、特に東南廻り線は繁忙期と閑散期の月別利用者数の差が約 7,000 人と、非常に大きな差が見られております。

32 ページから 34 ページでは便別利用者数を整理しており、33 ページの西コースでは、図上段の平日の往路 1 便目が突出して多い点や、34 ページの北廻り線の外回りの最終便が少ない傾向などが確認されています。

35 ページと 36 ページではバス停別の乗降者数を整理しており、35 ページの東南廻り線の路線網の東側や南側において、日平均で 1 人未満のバス停が存在していることがわ

かります。

36 ページをご覧ください。こちらの西コースは主に路線の西側を中心に日常的な利用が多いと推測される点や、下図の3) 北廻り線でも路線網の北側において、日平均で1人未満のバス停が複数あるなど、路線別の利用傾向の違いが見られている状況でございます。

37 ページをご覧ください。ここで1点訂正がございます。図4. 14のタイトルについて、「北廻り線の便別・日平均利用者数（令和5年度）」とありますが、正しくは「町内循環バスの収支状況」でございます。お詫びして訂正させていただきます。

こちらをご説明させていただきますと、町内循環バスの収支状況を整理しているものでございまして、運行経費は毎年およそ300万円の増加傾向にあることが分かります。

なお、本町の人口一人あたりの財政負担額は3,523円であり、これを県内19市の平均額と比較させていただいてございまして、本町の財政負担額が大きい傾向にあるといえます。

38 ページからは、今年度実施した各種調査結果をお示ししています。

はじめに40 ページをご覧ください。人流ビッグデータの分析結果の総括として、8月及び11月の分析結果から、軽井沢駅周辺の流動のほか、旧軽井沢や鳥井原団地周辺の流動が多いことが確認できます。このほか、町民および町外からの通勤通学として、佐久市や御代田町との流動も多いことが確認されています。

続いて45 ページからは、町内に設置したライブカメラを介した交通量調査結果となります。46 ページにお示ししたとおり、繁忙期のライブカメラ交通量から、国道18号では平日、休日ともに交通量が10,000台以上となっていたほか、プリンス通りではお盆の期間に更に急増するなどの混雑状況が確認されました。

また47 ページの歩行者の交通量では、旧軽井沢ロータリーにおいて1方向で16,000人となり、非常に人通りが多いことも確認しています。

続いて50 ページをご覧ください。よぶのる軽井沢の分析結果として、今回分析した令和5年10月から翌年3月までの実績から、①予約状況として、予約段階では県内が半数以上を占めていました。

51 ページの2) 日別予約件数では、表の下項目ですね、日平均にお示ししているとおり、休日の予約件数が一日当たり100件を超えていました。

続きまして 53 ページの 3) 予約成立状況について、予約確定後のキャンセルを含めると、最終的に全体の予約件数の約 4 割がキャンセルとなっていたことが分かります。また、②利用状況の下段の表のとおり、こうした予約状況に対して、実際の利用者は半数以上が県外の方であったことに加え、県外利用者は相乗りでの利用が多い状況も見られています。

また、55 ページの 3) 利用距離でございますけれども、3 km から 5 km が半数以上を占めておりまして、居住地別の場合、県内の利用者では 7 km から 8 km、県外利用者では 4 km から 5 km が最多となっており、利用距離の差が見られています。

また、4) 相乗りの有無については、2 つ目のポツのとおり、平日が 29%、土日祝日が 42%となっておりまして、平日と比較して休日に相乗り率が高い状況となっています。

56 ページをご覧ください。利用区間の状況から、県内の利用者では ISAK との流動が多いことから移動目的、県外利用者ではハルニレテラスなどの利用が多いことから観光目的と、それぞれで利用目的が異なっていることが特徴といえます。

続いて 58 ページからは昨年 4 月に開始したライドシェアの稼働状況に関する結果となります。58 ページにお示しするとおり、8 月の乗車件数が最多となりまして、7 月や 9 月と比較して、約 2 倍の利用となっています。

61 ページの時間帯別の乗車件数からは、主に 18 時台などの夕方の時間帯が多いものの、日曜日などの休日には午前中の利用が増える傾向も確認できます。

63 ページでございます。利用区間について整理させていただきました。3 km 未満の利用が全体の半数以上を占めるほか、利用の多い町の東側や中エリアでは 2 km 未満の利用が多いといった特徴が確認されました。

64 ページをご覧ください。こちらから 90 ページまでが、町民等へのアンケート調査結果となります。各アンケートの詳細な結果は 68 ページからお示ししていますが、本日は各種アンケート結果から判明した傾向をご説明させていただきます。

はじめに 65 ページをご覧ください。町民と別荘所有者のアンケート結果となります。通勤通学先では町内が最多で、移動手段では自動車が最多であるものの、19 歳や 80 歳以上では送迎や町内循環バスの利用割合が高い状況でした。

買い物においても移動手段では自動車が最多であり、19 歳や 80 歳以上では送迎や町内循環バスの利用割合が高い状況でした。

また、通院先は軽井沢病院が最多であり、移動手段では70歳以上の公共交通の利用が増える傾向も見られております。

町内循環バスのバス停や運行ルートをある程度知っている方は約4割にとどまり、町民と別荘所有者を比較しますと、別荘所有者の利用頻度が多い傾向が分かりました。

町内循環バスのダイヤや便数に関する満足度は約2割で、利用しない理由では「バス以外の移動手段がある」との回答が約8割を占めております。

よぶのる軽井沢の利用経験として、町民の約40%、別荘所有者の約70%は、そもそも運行を知らなかったと回答しております。

町内循環バスの今後の理想的な形態も伺っており、路線バスを主体として利便性を向上させる形態を望む回答が最多でありまして、そうした理想的な形態の実現に向けた町の財政負担は、「もっと増やしても良い」との回答が最多となっております。また、需要の大小に応じて路線バスとデマンド型を組み合わせた形態を望む回答も見られております。

続いて、66ページに進みまして、こちらは高校生世代の結果をご説明いたします。

登下校の手段は電車が最多のほか、登校では家族等の送迎、下校では徒歩の割合が高くなっており、送迎をしてもらう理由としては「徒歩や自転車では遠い」との回答が最多となっています。

町民の休日の外出先は、町外が7割以上を占め、移動手段では電車での外出が半数以上となっています。一方で、ISAKの生徒では町内が7割以上を占めておりまして、徒歩での外出が多くなっております。

よぶのる軽井沢については、ISAKの生徒では利用した割合および運行を知っていた割合が高い一方で、町民ではそもそもの認知度が低い傾向となっております。

続いて66ページ下段の小中学生の保護者の結果です。

登下校の手段は徒歩が最多のほか、家族等の送迎も多く、特に東部小学校や風越学園では家族等の送迎が半数以上を占めており、送迎している理由では、安心、安全だからとの回答が最多となっております。

お子さんの休日の外出先は町外が半数以上であり、外出時の移動手段は家族等の送迎が約80%を占める状況や、お子さんが町外の高校へ進学した場合の最寄り駅までの移動手段では、家族等の送迎が40%を占めるなど、家族等の送迎が多い傾向が見られております。

少しページが飛びますが91ページをご覧ください。こちらから101ページにかけて、繁忙期および閑散期に実施したバスの利用実態調査結果となります。こちらは委託事業者様の方で実際にバスに乗り込んで1日調査をした結果でございます。

92 ページをご覧ください。利用者の居住地について、町内循環バスの東・南廻り線は町民と町外の利用者が混在している一方で、北廻り線・西コースは町民の利用が多いといった傾向の違いが見られております。

94 ページの利用目的では、町内循環バスの東・南廻り線は観光、西コースは通学の利用が多いといった特徴が確認されております。

続いて、95 ページをご覧ください。94 ページの説明で申し上げましたが、通勤通学といった利用が多く、町内循環バスの3路線では、週3回以上利用するといった方が多くなっています。

100 ページをご覧ください。こちらは閑散期調査の利用区間に関する傾向をご覧ください。オレンジ色の北廻り線では大日向と信濃追分駅間など、大日向周辺からの利用が多く、繁忙期調査でも同様の傾向が確認されています。

緑色の西コースでは小中学校への利用も多く、通学利用が多いことが推測できます。

青色の東南廻り線では繁忙期、閑散期ともに軽井沢駅を起終点とした移動が非常に多く、このほか繁忙期には旧軽井沢、閑散期には風越公園を起終点とした移動も多い状況でございます。

隣の101 ページでございますけれども、西武観光バスの草津温泉から軽井沢駅の路線では、繁忙期、閑散期ともに軽井沢駅や星野温泉トンボの湯の利用が特に多くなっています。急行塩沢湖線では軽井沢駅の利用のほか、繁忙期には塩沢湖、閑散期には東急ハーヴェストクラブ軽井沢&VIALAの利用も多い傾向が分かります。

草軽交通の草津温泉から軽井沢駅の路線では繁忙期、閑散期ともに軽井沢駅や白糸の滝の利用が多く、繁忙期には旧軽井沢の利用も多いことが特徴です。

続いて102 ページ、こちらは交通事業者や町内の主要な施設の関係者の皆さまを対象としたヒアリング、またはアンケートによる意向調査結果となります。

昨年12月の交通会議における報告では、バスやタクシーの事業者の皆さまへの調査結果を報告いたしましたが、今回の追加項目として、観光協会やホテル旅館組合などの町内の主要な施設関係者への公共交通に対する意向等のアンケート調査結果となっております。

はじめに102 ページの下段から103 ページにかけてのバス事業者のヒアリング結果についてご説明いたします。利用者からの声として、鉄道への乗り継ぎに関する利用者からの改善要望を確認しています。また、バス事業者が共通して認識している運行上の課題と

して、渋滞による遅延への対策が挙げられております。このほか、事業継続上の問題点では、ドライバー不足や高齢化といった担い手の確保のほか、維持費の増加などが挙げられております。

続いて 104 ページ、こちらはタクシー事業者アンケート結果になります。利用者は別荘所有者や観光客が多く、週末の夕方に利用が集中する回答を得ています。また、事業継続に関する課題として、ドライバー不足や高齢化といったバス事業者様と同じ課題、担い手の確保のほか、車両の老朽化や車両待機場所の確保といった回答を確認しております。

続いて 105 ページから 106 ページにかけまして、施設関係者アンケート結果をお示ししております。観光分野に関して、観光協会やホテル旅館組合の回答からですね、電光掲示板等によるバス運行情報の提供などに関する要望が見られます。福祉や医療の分野として、社会福祉協議会や軽井沢病院の回答からは、町外の医療機関への往来が可能な移動手段へのニーズを確認させていただきました。教育分野といたしましては、児童、生徒の通学のためのバス運行本数の増加やスクールバスの運行といった要望を確認させていただきました。加えて、「よぶのる軽井沢」の利用が多かった ISAK からは、よぶのる軽井沢のようなデマンド運行の実施の要望を確認させていただきました。

最後になりますが、107 ページから 108 ページ、こちらは昨年 12 月から今年 2 月にかけて開催したワークショップの結果を記載しています。昨年 12 月には軽井沢中学校、今年の 1 月から 2 月には木もれ陽の里、追分公民館、軽井沢高校において開催し、軽井沢中学校や軽井沢高校では学校の生徒、木もれ陽の里では生活支援体制整備事業協議体の参加者、追分公民館では追分区および三ツ石区の住民を対象に、参加者の普段の移動実態や公共交通が使えていない状況、改善してほしい公共交通といった意向について調査を行いました。

107 ページ下段にお示した（２）調査結果ですけれども、各ワークショップから判明した普段の移動実態として、買い物先ではツルヤ軽井沢店などが多いほか、西地区の町民では佐久市や御代田町方面へ外出がしたいという要望が見られました。公共交通を利用できていない理由では、運行本数の少なさや渋滞による遅延に対する懸念が多い傾向にあります。軽井沢町にあってほしい公共交通、または改善してほしい公共交通として、通院・買い物のニーズに合わせた佐久市や御代田町方面へのバスや、生徒の通学時間に適したバスの運行といった意見のほか、電子決済の導入や待合スペースといった利用環境の改善に関する要望も見られております。

それでは、先ほどまでにご説明した各種調査結果等から判明した傾向や課題、およびそれら課題などに基づく来年度の計画策定に向けた検討の方向性、こちらにつきまして、A 3 見開きの資料 2 をお手元にご用意ください。

はじめに、左側に示した各種調査から見えた傾向・課題の部分です。今年度の各種調査から見えてきた傾向や課題として、お示ししたとおり大きく分けて 5 つの分類にまとめております。

1 つ目の「公共交通の利用傾向」として、町内循環バスでは昨年度に過去最多の利用者数を記録したほか、8 月に利用者が増加する状況にあるなど、需要が増加している傾向が分かっております。

また、路線別の状況では西コースや北廻り線では通学や買い物を目的とした生活利用が多い状況にあるほか、アンケート結果からは、町内循環バスの利用頻度が町民に比べ別荘所有者で高い傾向にあるなど、町内循環バスの利用傾向が判明いたしました。

加えまして、アンケートでお聞きした町内循環バスの今後の理想的な形態では、路線バスを主体として利便性を向上させる形態を望む回答が最多となっていたほか、そうした理想的な形態の実現に向けた町の財政負担は、「もっと増やしても良い」との回答が最多であったなど、町民等のみなさまの将来的な町内循環バスに対する意向が把握できております。

利用の傾向といたしまして、主に町への来訪者に関する状況ですけれども、町内循環バスの利用目的は先ほども申し上げたように町民の生活利用が中心となっているものの、東・南廻り線では観光利用者が混在している特徴があります。

さらに、よぶのる軽井沢の実証運行中の利用傾向から、県外利用者ではハルニレテラスなどへの移動が多く、相乗りも多かった一方で、県内利用者では目的地が分散し、利用距離が長く、相乗りも県外利用者に比べて少ないといった傾向がみられたことから、町民などの移動と観光客の移動には違いがあることも確認をしております。このほか、タクシーの利用傾向は、主に週末の夕方に別荘所有者や観光客が集中することも確認されました。

バスと鉄道の結節に関しましては、町内循環バスの東・南廻り線や草津温泉行きの路線、急行塩沢湖線などが軽井沢駅で結節するため、主に観光客の乗降が非常に多く、繁忙期の混雑が目立っております。また、バス利用者からの要望として、鉄道への乗り継ぎを改善してほしいとの要望があることも確認をしております。

次に 2 つ目の「公共交通を利用したいが利用できていない状況」といたしまして、公共交通カバー率から町民の 3 人に 1 人は公共交通空白地に位置しておりまして、そうした公共交通空白地のうち、千ヶ滝西区や茂沢区では高齢化率も高いことが課題となっております。

また、アンケート結果からは町内循環バスの今後の理想的な形態として、需要の大小に応じて路線バスとデマンド型を組み合わせた形態を望む回答も見られたことや、公共施設等の関係者が把握する移動ニーズとしても、「よぶのる軽井沢」のようなデマンド運行が求められているなど、現在の運行形態とは異なる運行に関するニーズも確認させていただいております。

さらに、ワークショップなども踏まえた町民の移動ニーズでは、町内での移動に加え、県内の近隣市町との通勤・通学や佐久市や御代田町への通院・買い物も多いなど、町外との移動状況も確認をさせていただきました。

続いて3つ目の「公共交通を利用していない状況」として、町民の自動車保有台数や65歳以上の運転免許保有者数は増加傾向にありまして、町民等の通勤・通学や通院、買い物などにおける移動手段は、大部分が自動車による移動でありますので、現状では町内循環バスの利用が少ない状況です。さらに、小中学生の普段の通学のほか、休日の外出においても家族等の送迎が多く、送迎理由としては「安心・安全だから」が最多となっているなど、小中学生の移動に関する部分でもバス等の公共交通の利用は少ない状況です。

続けて4つ目の「公共交通維持に向けた課題」といたしまして、路線バスの運行経費の増加が続いており、今後の維持費の確保が懸念されているほか、ドライバー不足や高齢化も課題であるため、事業の継続に関して引き続き厳しい状況となっていることが分かっています。

最後に5つ目の「公共交通の利用方法に関する問題点・要望」として、町内の観光施設などの関係者からは施設利用者への電光掲示板等によるバス運行情報の提供を求める意見が見られるほか、利用者からも、バスの行き先や遅延状況が分からないといった意見を確認しています。また、アンケート結果やワークショップでは、電子決済の導入や待合スペースといった利用環境の改善に関する要望も見られております。

以上の傾向や課題に基づきまして、今後の検討の方向性としてページ右側の部分をご覧いただければと思います。

はじめに、「公共交通の利用傾向」に基づく方向性として、「路線バスを主体とした路線網の構築」を検討します。まず、町内循環バスの利用者が増加傾向にあり、町民や別荘所有者の日常的な利用が確認されていますので、「町内循環バスを主とした町民・別荘所有者の移動支援」を挙げています。これに対し、観光客等の来訪者の移動需要は異なりまして、主に繁忙期に移動が集中する状況にあるため、「路線バス・タクシー（ライドシェア含む）を主とした観光客等の移動支援」も必要となります。さらに、バスおよび鉄

道が結節する鉄道駅では、乗り継ぎの確保が求められていますので、「軽井沢駅、中軽井沢駅、信濃追分駅を中心とした交通結節性の確保」などが挙げられます。そして、町内では繁忙期には渋滞による深刻な混雑が発生し、路線バスが大幅に遅延する状況にあることから、「繁忙期等の混雑解消に向けたパーク＆レールライドの推進、混雑回避に向けた町内循環バスの再編・検討」が必要となります。

続きまして、「公共交通を利用したいが利用できていない状況」に基づく方向性として、「公共交通空白地等に対する移動支援の検討」が必要です。ページ右下にお示ししたイメージ図のように、町民の3人に1人が公共交通空白地に該当していることに加えて、現在の町内循環バスの運行形態とは異なるサービスを求める意向も見られますので、「公共交通空白地に対する移動支援の拡充」を挙げています。また、アンケート結果やワークショップに基づく実態として、地域の違いなどにより通院などの生活移動先が町外となっている状況もあることから、「地域性と生活行動圏を考慮した移動支援の向上」が必要となります。

続きまして、「公共交通を利用していない状況」および「公共交通維持に向けた課題」に基づく方向性として、「利用促進」を検討していく必要があります。町民等の生活移動の大部分は自動車によるものであるため、「生活利用のメリットや具体的な活用方法の浸透」が挙げられます。こうした状況とあわせて、交通事業者では維持費やドライバー不足といった課題が続いているため、「運行事業の経費増加・人材不足等の解消に向けた周知・取組」も必要となります。

最後になりますけれども、「公共交通の利用方法に関する問題点・要望」に基づく方向性として、「利用環境の整備」といったものも必要となります。公共交通に関する利用者、関係者からの要望から、「利用方法や行き先といった運行情報の提供」、「遅延情報の提供」、「決済やバス待ちなどの利用環境の向上」といった内容を検討していきます。

ここまでお示しした内容が、今年度の調査に基づく課題や方向性の整理となります。来年度の本格的な計画策定では、改めて課題の整理や基本方針、目標などの計画への記載事項を皆様に協議いただく予定としてございます。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

説明は長くなりましたが以上となります。

【会長】

はい、説明ありがとうございました。

かなりボリュームもありましたが最後の資料2で課題を中心にということで説明をさ

せていただきましたが、何か質疑等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。幅広い傾向や状況をもとに分析していますのでいっぺんに把握することは難しいかと思うんですが、特に資料2のところで要約をしています。なんでも結構ですので、何かありましたら。

はい。轟先生お願いします。

【A委員】

丁寧なご説明ありがとうございました。ちょっと確認をさせていただきたいんですけれども、町内の循環バスの満足度がとても低いよってというような結果だったかなというふうに思うんですけれども、利用しない理由として、バス以外の移動手段があるという回答があつてというようなお話もあつたんですけれども、そもそもそのバス以外の移動手段があるという方をサンプルに含めてしまうと、当然使っていないので満足度も低くなってしまうのかなというふうに思うんですけれども、実際利用されている方々の満足度というのは確認することはできますでしょうか。

【株式会社地域総合計画 谷口技師】

今回調査報告をさせていただいたところに関して、資料のところでアンケート結果で満足度のところがありますけれども、75ページをご覧くださいければと思います。

こちらの75ページの満足度のところですが、これは既に利用アンケートの中で町民バスを利用されている方というフラグを立てておりまして、実際利用されている方の満足度状況になっております。

こちらをご覧くださいますと実際利用者の方の上段のグラフですね。図5.43で説明しますと、実際月に1回以上利用されている方に絞った結果といたしましては、バス停までの距離であったり、あるいは乗りやすさ、乗り心地といったところに満足をしていただいている状況かと思います。一方で、この赤色の部分が多い便数や運行ダイヤといったところが実際に1回以上利用されている方の満足度の状況として低い傾向が見てとれますので、実際利用されている方についてはこのような傾向が確認されていると認識しております。

【A委員】

ありがとうございます。こちらについても、例えば本当に先ほどのご説明にもあつたように、毎日のように週5回以上使っているだとか、ヘビーユーザーごとに分けたりだとか、居住地域ごとに分けたりってというような分析も可能ということですかね。

【株式会社地域総合計画 谷口技師】

そうですね。利用頻度を別に聞いておりますのでヘビーユーザーの方をより抽出する

ことは可能と認識しています。

【A委員】

わかりました。もし現状のところで、例えば路線ごとの特徴とかがこのあたりで見えてくると町民が望んでいるニーズみたいなものが、もしかしたら明確になるのかなというふうに思いますので、より丁寧な分析をしていただけるといいのかなというふうに感じました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。

A委員もおっしゃったのは、やればできるっていう理解でいいんですよね。

【株式会社地域総合計画 谷口技師】

はい。可能です。

【会長】

一番最初の会議の際、確かA委員がヘビーユーザーに聞くとまた違うパターンが出るといったことや、ヘビーユーザーの方は運行ダイヤに合わせて行動パターンが変容するってことを確か説明されたと思いますので、そのあたり意識されたご質問かと思うんですけど。

はい。他はいかがでしょうか。

町側からとして、今検討している情報提供としてお話したいんですが、渋滞対策ということではないんですが駐車場問題への対策として、駐車場の特に軽井沢駅周辺の満車空車情報を出すということで今準備を進めています。無駄に満車なのにそっち方向に行かないようにとかですね。そういうことを狙って今準備をして、町営のものだけでなく、民間でそういうデータが出せるところにご協力をいただくとか、検討しています。令和7年度中には、ホームページですとかそういったもので提示したいと思っております。

それからもう一つですね。今日のテーマにも関連するんですけども、町内にあるしなの鉄道さんや循環バス、路線バスを全部組み合わせた統合型のスーパーダイヤですね。これを実際にもう個人で作られている方がいて、こういうものを作ればいいじゃないかという方ですね、検討しています。その方は都内への通勤者で50代くらいの方ですけど、町内では車使わずに、あえて自分の行動に合わせて、公共交通を組み合わせで移動しているという方だったんですね。これはすごくないねということですね、そういうものができないか、町でも検討を始めています。

また、まだ理想型ですけど、それをさらに進めればホームページに公開してマイダイヤ

を作れるんじゃないかと話をしています。自分はこのエリアだけど、普段こういうパターンで、こういう組み合わせを作ってくれといったらそれを提示するとかですね。そこまで作れて、ホームページで自分用にダウンロードするみたいなのができるといいねっていうのは最近話を始めていまして、一つの発想としては近いものがあるかなと思っています。

あとは今の交通網の中にシャトルバスのようなものも組み合わせられないかっていうのを検討しています。例えば東側と中側と西側、南側とかですね、小さいマイクロバスのなものをシャトルでぐるぐる回すとかですね。これはまだ本当に検討レベルの前なんですけど、本当に事務局だけで話しているレベルなんですけど、駅中心にぐるぐる回るようなものとも組み合わせていくと、かなり利便性が高まるんじゃないかと。

予約はできればスマホでやって、決済も併せてとかですね。そういったものも検討を始めております。

降りる場所は自由がベストなんですけど、乗るところで急に止まると危険ですので、乗るときは予約を入れてもらってですね、降りるときは安全であれば安全なところで降ろすというような。路線バスでも、南側では西武バスさんが下りる場所は自由といった区間があるんですけども、そういうような形で組み合わせられないかというのでも検討していますので、この会議の中でそれも合わせていくとより具体的なものができるんじゃないかなってというのは、町の方では検討している状況です。そんな検討状況です。情報提供でした。

あとはよろしいでしょうか？はい。

【事務局】

事務局からちょっといろいろと確認をさせていただきたいというのがございまして、今回県の方とかも参加されている中で、今後佐久の地域別部会というものが開催されていき、その佐久地域全体の公共交通も考えていきたいと思いますというような形になろうかと思えます。

その辺をですね簡単に、この場でご説明ができる部分があれば、皆様に共有をしていただけだと助かりますし、また広域的なバス路線の支援というところも考えられているところもあればお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

【B委員】

〇〇〇〇の〇〇でございます。いつもお世話なっております。邪魔になりますので着座にて、今説明ございました長野県の地域公共交通の活性化協議会その佐久地域別部会でございますが、この度ですね今週の金曜日に開催をさせていただきます。

これまで県の地域公共交通計画自体、昨年の6月に策定されたところでございますけれども、地域別の計画につきましては、まとまって進んでいるところもあれば、佐久地域の

ようにですね、まだ交通の現状を示したもののみというところもあつたりします。こうした中で県の公共交通計画の方でございますけれども、これから品質保証ですね。つまりどのように具体的に利用をさせていくのかという、公共交通のレベルを上げていくための部分も詰めていかないといけないというところになりますけれども、基本的に公共交通の方でターゲットとしておりますのは、通院と通学と観光の3点の利用者の視点に立って、どのような利用がレベル的に確保されるのが望ましいかというところで進めていくという必要がございます。こうした中で、例えば通学でございましたら当然朝の登校ですね、それから高校生の方を考えてまいりますと部活動が終わって帰宅していくというところの部分でありますけれども、通院につきましてはやはり朝病院の方に行きまして、それでまた帰りに午前中に診察を終えて昼ぐらいまでに帰ってくるというようなところも含めましてですね、実際にそのような各公共交通機関の部分を利用して、皆さんがそういった通院、通学、あるいは観光の部分でございますが、観光は主要な観光地にどのようにちゃんとアクセスができるのかというところも含めまして、これから詰めていくというところでやってまいります。

佐久地域別部会の方といたしましては、基本的には各市町村内ではなくて、市町村をまたぐ部分の中でですね、広域的な部分について論議をしていくというところになりますものですから軽井沢町さんにおかれましては、一旦は北陸新幹線、それからしなの鉄道があるというところがございます、そこから町外に出てくとなりますと、先ほど少し説明ありましたけれども、例えば横川駅までのバスもありますし、それとまたいろいろ考えてくる部分、通院の中でですね、例えば軽井沢病院に限らず町外の病院へアクセスしていくというところも考える中で、どのような交通手段をどのような形で確保していくかっていうところの議論を進めていく必要があろうかと思えます。

基本的には地域別部会をやっていく中で明後日会議がございますが、私どもの事務局の案といたしましては、各方面別みたいな形でですね、分科会を設ける中で、具体的な案を詰めていく中で、来年度、深い議論を詰めていければよろしいのかなと考えているところでございます。

現在、例えば佐久市から御代田町さんの方へ向かう佐久御代田線というバスがございます。こうしたバスは、例えば軽井沢町さんの先ほどの通学状況を見ましても佐久地域内へのですね、佐久市内への通学っていう学生さんもいらっしゃるようでございますし、あるいは、場合によりまして通院ニーズというのも当然佐久市方面についても考えられるところもございますので、そういった中では佐久市さんと軽井沢町さんの協議の中でですね、その分科会を設けて、個別具体的な議論の方を進めていければいいのかなというふうに考えております。

また町の議論と並行する中でですね、また議論を深めていければというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

また個別の公共交通の支援の方につきましては、佐久地域振興局お金は持っております

せんものですから、そうした中で具体的に持っております県の交通政策局の方で説明の方をしてまいります。

【C委員】

お世話になります。県の交通政策課長が委員でございますが、今日は代理でまいりました〇〇と申します。よろしくお願いします。着座で失礼します。

今のB委員の方からもご説明ありましたが、市町村をまたぐような移動をどう確保していくか。ということにつきましては佐久地域別部会というものが設けられておりますので、そちらで議論をしていくということになります。

その中で市町村をまたぐ、ある程度大きい拠点と拠点を結ぶかつ、市町村をまたぐようなバス路線に関しては、今までも国の補助制度がございましたし、県もそれに相乗りをして補助をしているという仕組みがございましたが、どうしても赤字の補填にとどまるという制度でございまして、さらに赤字の補填と言いましてもいろんなカットの条件があって、なかなかその赤字すらも埋められていないという状況でございます。

県としましては、そういった状況をちょっと打開していかなければいけないなということで議論はしているところではございますが、赤字補填にとどまらない支援の方法というものを考えております。こちら地域別部会だとか、あとは全体の来週月曜日にございますが、県の公共交通活性化協議会でお示しをしてみたいと考えておりますが、地域別部会の方でどこどこを結ぶものがこの地域として大事だということを設定していただいて、そう設定した以上はそこを結ぶ移動の品質を県だけではなくて、みんなで確保していかなきゃいけないと、通勤通学の話ありましたが、みんなの力で確保していくというのがまず大前提でございまして、その中で県域をまたぐような移動の軸に関しましては、県もこれまで以上の赤字補填以上の支援をしていくということで検討を進めております。

まだ具体的なイメージがなかなか皆さんわからないかと思うので、仮にですね、例えば現状の佐久地域の路線ですと、さっき話が出ました佐久平と御代田を結ぶような佐久御代田線ですとか、あとは佐久平と佐久市の望月を経由して蓼科高校の方に行っている中山道線というバス路線があるんですけども、そういったある程度の拠点と拠点を結ぶ規模の路線につきましては、県としましてもこれまで以上の支援をしていくということで検討しております。もちろん既存のものに限らずですね、地域で必要だということで見直しを行った上で、新たに引いた路線ですとか、あるいは現状の路線を延ばしたりとか、そういったものも対象になってまいりますので、この資料2の方でご提示いただいた近隣の市町村への通勤通学の話とか通院、買い物需要も多いということですのでそういった観点であれば、県の支援も検討する中で、ぜひご活用いただければと思っておりますし、もちろん県としても主体的に考えていかなければいけないところではありますので一緒に考えてまいりたいと思います。

あと一点ちょっと補足でまた別の観点なんですけども、最後にご提示いただいた利用方法に関する問題点、要望というところで、電光掲示板による運行情報提供だとか遅延状況、電子決済、待合スペースとかそういったものに関しましては、県としても軽井沢に限らず必要なのだと認識してまして、今県の方で宿泊税の導入を検討しているんですけども、その導入の使途の検討とあわせて、そういったものもできないかっていうことも考えておりますので、具体的な使途だとか、検討ってこれからなんですけど、そちらの状況もこちらからも共有しますし、町の方でもぜひご活用いただきながら一緒に検討していければいいかなというふうに思っています。長くなりすいません以上でございます。

【会長】

ご説明ありがとうございました。

今の最後の部分ですけれども、バスの運行情報のところですね。軽井沢町の宿泊税を進めるわけですけれども、県が広域的なところで使う中では、ぜひこの辺りは優先順位を上げてやってもらいたいと思います。そんな難しい話じゃないと思いますので、お金もそんなにからないと思います。バスのところに要は情報発信の器具を付けられただけかだと思いますので、データを飛ばしてそれをホームページ見せます、というようなことを先ほど町内のダイヤ見せますっていうのと同じようにですね、町のホームページに行けば今のバスがどの地点にいるということを見せることはかなり簡単なことだと思いますので、ぜひ私からも県の宿泊税でやってほしいと思います。ぜひそこは伝えていただきたいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。事務局がなぜ皆様にお尋ねさせていただいたかと言いますと、ニーズに関しましては町外のニーズというところがやはり見えてきているというところの背景でいきますと、町単独で広域的な路線を確保していくところはなかなか難しいというところで、ターゲットを絞った形ではいろんな施策を多分できるかと思いますが、幅広な形での移動支援という形になりますと、やはり他市町村も含めてですけれども協力をいただきながら移動の充実化を図るべきものなのかなと考えてございますので、並行してですね、考えていただければと思いますので、またこちらの方からわからない点等あればまたお伺いさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

【会長】

いずれにしてもここに国、県、町含めてですね、関係者でいろいろ知恵を出して進めていきたいと思ひますし、特に西側の人たちがですね、町外への買い物通院通学の要望が非常に高まっておりますので、そのあたりもカバー率がちょっと下がっている部分でもありますので、ぜひそこは協力しながら町外へのアクセスの確保も進めていきたいと

思います。

他によろしいでしょうか。では他にないようですので、公共交通計画につきましては、いただいたご意見を踏まえまして、事務を進めさせていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

続きまして、(2) その他について事務局より何かありますでしょうか。

【事務局】

特にありません。

【会長】

全体を通して、何かご意見等ありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございました。これですべての議事が終了しましたので議長の任をおろさせていただきます。ご協力どうもありがとうございました。

【事務局】

土屋会長ありがとうございました。

それでは次に、次第の「4. その他」に関しまして、事務局よりご報告申し上げます。

交通政策系の市村からご説明させていただきます。資料3をお手元にご用意ください。こちらはですね、前回報告いたしました JR 東日本様と西武ホールディングス様で実施される、町内での自動運転の実証運行に関しまして、実施内容が固まってきましたので、ご報告いたします。なお、表紙に記載しておりますが、今後プレスリリースを予定されていると聞いてございますので、本日の資料の取扱いにつきましては注意をお願いしたいと思います。

早速ですけれども、タイトル下のページ、2 ページでは自動運転の現状を参考として記載しております。自動運転は交通事故の削減、移動手段の確保、ドライバー不足の解消などの社会課題に対して、解決する手段の一つとして推進をされております。

自動運転はレベル0～5の6段階に定義されておりまして、官民連携して、レベル2の実証実験が全国各地で実施されている状況です。また、国の政府目標といたしましては、2025年に全国で40カ所、2027年度までに100カ所という目標が掲げられております。

今回、軽井沢町で実施される自動運転ですけれども、こちらは運転手が乗車して、必要に応じて運転支援を行うレベル2での実施となります。

3ページをご覧ください。

自動運転の実施体制ですが、事業主体は JR 東日本様と西武ホールディングス様となり

ます。記載している民間事業者様がございますけれども、こちらは各分野の強みを活かしまして、安全、安心な社会実装に向けた実証となるようサポート体制が組まれています。

なお、軽井沢町としては、町内で実施されることから、関係者との調整、実施される旨の周知などを行う立場として協力をさせていただいております。

実際に運行される車両は記載のとおりとなります。使用する車両はポンチョ型の EV バスを使用。最高速度は 35 キロとなりますが、道路幅や道路状況において、速度は調整されると聞いてございます。

4 ページをご覧ください。

実際に運行されるコースや期間等ですけれども、運行期間は 6 月 28 日、土曜日から 7 月 4 日、金曜日までの 1 週間。運行時間は 9 時から 17 時 30 分までを想定されております。

走行ルートは軽井沢駅北口から旧軽井沢ロータリーまでの約 3 キロ。1 往復 20 分から 25 分程度と想定されております。運行本数は調整中とのことですが、1 時間 1 本程度になると伺っています。

なお、初日の 6 月 28 日、土曜日は関係者のみの試乗会となり、運行時間も正午以降を予定されていると伺っています。

乗降箇所につきましては、軽井沢駅と旧軽井沢ロータリー付近の 2 箇所。運賃は無料で、乗車を希望される場合は事前予約が必要となります。

5 ページをご覧ください。

乗降場所と実際に走行するルートですけれども、軽井沢駅北口に関しましてはバスロータリー 5 番乗り場、現在、ジェイアールバス関東様のバス停が設置されている場所に停車し、乗り降りをしていただく予定です。駅側の走行ルートは、乗降場所から軽井沢駅北口、ペデストリアンデッキの下を通りまして、北に上がっていくルートとなります。

また、旧軽井沢ロータリー側はロータリーを転回するルートといたしまして、写真に記載があるとおり②松葉タクシー乗り場前を降車場所とすると予定されております。

なお、渋滞等の道路状況や関係者への説明を実施した際、ロータリー付近での長時間の滞留は避けてほしいとの要望を受けまして、ロータリー側は降車のみとされたことと伺っておりまして、地域の実情に配慮いただきながら、計画をしていただいております。

6 ページをご覧ください。

こちらは実証実験に関わる手続きとなります。既に関係者と協議を進めて準備をされていますので、参考までにご覧いただければと思います。

なお、下から 3 番目に記載があります自動運転車両走行の項目では、安全性の確認などを行うため、6 月中旬からテスト走行されますので、こちらにつきましては広報等で周知

させていただきますけれども、本協議会の委員の皆様に関しましてもご承知おきください。

概要説明は以上となります。今回実施される自動運転は、レベル2での実証運行となりますので、本会議の承認は必要ありませんが、公共交通に携われる委員の皆様にも情報を共有しまして、適宜意見等を伺えればと思ひまして今回報告をさせていただいております。意見につきましては必要に応じて先方に要望をお伝えしまして、より地域の実情にあった取り組みということを検討していただければと思いますので、何かありましたら、ご質問等いただければと思います。

事務局からの説明は以上となります。

それでは、その他で説明した内容につきまして質疑等ある方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

【A委員】

ご説明ありがとうございました。今回の自動運転なんですけれども、走行速度はおおよそどれぐらいを想定されているのでしょうか。というのもこの部分、朝の9時から17時半までということで、どれぐらいの交通量が日頃あるのか、私把握はできていないものの、既存の交通への影響っていうのをどれぐらい予測しているのかっていうのが、既に検討されているようでしたら教えていただければなというふうに思います。

【事務局】

はい、ありがとうございます。最高速度が35キロと聞いておりまして、どの程度の速度で走るかということに関しましては、テスト走行を6月中旬からやられまして、その道路状況に鑑みてどのような運行方法をしていくかということで決めていくという形で聞いておりますので、現時点で何キロということまでは事務局としては承知してございませんので。また、そういったことがわかればですね、皆様にご報告をさせていただければと思います。以上でございます。

他にご質問のある方いらっしゃいますか。よろしいですかね。また何かご質問等あれば事務局の方にご連絡いただければ、個別にも対応させていただきますので引き続きよろしくをお願いいたします。

すいません、一点ですね、資料に関して今後この会議ですね、公開となりますけれども最後の6ページにですね、担当者のお名前とアドレスが入っております。公開する際にはこちら個人情報になってございますので、消した形で公開をさせていただければと思

いますので、ご了承の方よろしく願いいたします。

それでは本日は貴重なお時間を頂戴いたしまして、ご意見をいただき誠にありがとうございました。

地域公共交通を取り巻く環境は厳しい状況ではありますが、行政といたしましても試行錯誤をしながら、安心して快適に過ごせるよう努めていきますので、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

以上をもちまして軽井沢町地域公共交通会議を閉じたいと思います。

本日はお忙しい中ご参集いただきまして誠にありがとうございました。帰り道お気をつけてお帰りください。